

経済トピックス

1 経済日誌

2025年8月～2025年11月

全 国		和歌山・大阪	
9月1日	2025年は史上最も暑い夏	8月6日	英名門校、和歌山市に姉妹校
	気象庁は、今夏(2025年6月～8月)の日本の平均気温が過去30年の平均値(基準値)を2.36度上回り、1898年の統計開始以降で最も高かったと発表。記録更新は3年連続。		英國の名門パブリックスクールで、チャールズ国王の母校として知られるゴードンストン校の姉妹校が和歌山市に開校する。小学6年～高校3年の7学年の全寮制で、開校は2027年9月の予定。
9月5日	最低賃金、全国で1000円超決定	8月27日	「みかんシステム」世界農業遺産に
	厚生労働省は、各都道府県の審議会で決まった2025年度の最低賃金(時給)の改定額を発表。初めて全都道府県で1000円を超える全国平均は現在の1055円から66円上がり、1121円となった。		「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」が国連食糧農業機構から世界農業遺産に認定された。「みなべ・田辺地域の梅システム」に続いて2例目となる。
9月14日	65歳以上が29.4%、過去最高	8月27日	和歌山を宇宙の玄関口に
	総務省が公表した人口推計によると、65歳以上の高齢者は3619万人で総人口に占める割合は29.4%と過去最高を更新し、人口4000万人以上の国の中でトップ。		和歌山県は、串本町の小型ロケット発射場を核に、宇宙産業を育成して「スペースエントランス」となることを目指すアクションプランを紀南10市町村と策定し、2040年の主要産業化を目標としている。
9月26日	南海トラフ「60～90%以上」	9月2日	大阪市、都市ランク5年連続首位
	政府の地震調査委員会は、南海トラフ巨大地震(M 8～9)の発生確率算出方法を見直し、今後30年以内の発生確率を従来の「80%程度」から「60～90%程度以上」へと改訂した。		森記念財団都市戦略研究所が、都市の特性を多面的に評価する「日本の都市特性評価」2025年度版を発表し、東京23区を除く136都市の総合ランキングで、大阪市が5年連続で1位となった。
10月21日	女性初の首相、高市内閣発足	9月10日	空飛ぶクルマ、2027年商用化へ
	自民党の高市早苗総裁は、衆参両院の本会議で第104代首相に指名された。女性初の首相就任で、同日、自民党と日本維新の会の連立政権となる高市内閣が発足した。		日本航空と住友商事が出資する「空飛ぶクルマ」の運航事業者Soracle(ソラクル、東京)は、一般客を乗せて飛ぶ商用化について、大阪・関西地域で2027年の実現を目指すと発表。
11月6日	実質賃金9月1.4%減	10月2日	関西、宿泊・飲食で33万人不足
	厚生労働省発表の9月毎月勤労統計調査によると、物価変動の影響を除いた実質賃金は前年同期比で1.4%減となった。賃金の伸びが物価上昇に届かず、9カ月連続のマイナスとなった。		アジア太平洋研究所は、関西の長期的な労働需給について、カジノを含む統合型リゾート(IR)が開業する2030年に、宿泊・飲食関連に必要な人材が33万人不足すると試算した。
11月20日	長期金利が1.8%台まで上昇	10月13日	万博閉幕、来場2500万人超
	長期金利の指標である10年物国債利回りは、財政悪化などへの懸念から17年ぶりの水準となる1.8%台まで上昇。高市政権による総合経済対策が大規模になる見通しの中、国債需給が悪化している。		184日間にわたった大阪・関西万博が閉幕。国内開催で過去最多の158カ国・地域が参加し、来場者は2557万8986人。2030年サウジアラビア・リヤド万博にバトンを渡した。
11月21日	21.3兆円規模の経済対策を決定	11月4日	特急くろしお、増便実験開始
	政府は、物価高対策や経済安全保障強化に取り組む総合経済対策を決定。減税分含め21.3兆円と前年度を大きく上回る規模で、積極財政で景気刺激を図る高市首相の姿勢を反映する対策となった。		不採算路線に挙げられるJR紀勢線の新宮～白浜間の利用増を目指し、特急「くろしお」の増便実証実験が始まった。期間は2026年3月末までで、今後の地域交通の在り方の議論に繋げる。
11月28日	連合「5%以上」要求決定	11月28日	大阪マンション上昇率首位
	連合は2026年春闘で3年連続となる「5%以上の賃上げ」を要求する方針を決定した。物価変動を考慮した実質賃金を「1%上昇軌道」に乗せ、持続的な生活向上を目指す。		日本不動産研究所は、大阪のマンション価格が2025年10月時点で半年前比3.4%上昇し、調査対象都市の中で最大の伸びと発表。大規模再開発や「万博効果」が寄与した模様。

経済トピックス

2 地域開発のうごき

2025年8月～2025年11月

和歌山県内

8月17日 「新」河西橋が開通

紀の川河口近くに架かり、歩行者・二輪車専用の生活道路として利用されている和歌山市の河西橋が、上流側の新橋りょうに架け替わった。新橋は全長473メートル、幅6メートルあり、歩行者と二輪車の通行を分離して安全性を高めた。

8月18日 串本で富裕層向けホテル計画、2027年度の開業目指す

飲食店運営のソルト・コンソーシアム（東京）が、串本町で富裕層向けホテルの開業計画を表明。計画中のホテルは、串本町の海岸部に建設予定で、総工費は約40億円。客室は20～30室の規模で、心身を整えるウェルネスリゾート施設を目指す。

8月21日 和歌山城前に高級ホテル建設へ、2027年夏以降の開業予定

和歌山城を臨む和歌山市六番丁の旧みづほ銀行和歌山支店跡地に、全室スイートのホテル建設する。事業を手掛けるのは（株）丸和（和歌山市）で、訪日外国人らの高級志向に対応する考えで、2027年夏以降のオープンを予定している。

9月19日 新宮の国道168号・相賀トンネル供用開始

新宮市と奈良県五條市を結ぶ国道168号線で整備が進められていた相賀トンネル（979メートル）を含む約1.4キロの道路が完成。国道168号は紀伊半島内陸部を南北に縦貫する主要幹線道路で、防災や地域経済を支える重要な役割を担う。

9月29日 白浜町、社会教育機能を集約した複合施設を建設

白浜町は、同町十九渕地区に社会教育機能を集約した複合施設の建設方針を明らかにした。老朽化している町立児童館の建て替えに合わせ、図書館や青少年センターを併せる形で、2028年度中の完成を予定。

10月15日 和歌山市のコスモパーク加太に「くらこん」が新工場建設

塩こんぶを主力商品とする食品メーカー、（株）くらこん（大阪府枚方市）が、和歌山市加太のコスモパーク加太に新工場を建設する。新工場の敷地は1万3757平方メートルで、建物と設備に約15億円を投資する。2027年4月の操業開始を目指す。

10月31日 御坊・日高港工業団地、バイオマス発電所竣工

国の重要港湾、日高港に造成された日高港工業団地（御坊市塩屋町）で、和歌山御坊バイオマス発電所が竣工した。発電所は、大阪ガス（株）、（株）エネウィル、SMFLみらいパートナーズ（株）の3社出資の合同会社が運営する。

10月31日 田辺広域5市町、新たなごみ処理施設整備に向け協定

田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町は、新たなごみ処理施設の整備に向け、協定を締結。5市町でつくる「田辺周辺広域市町村圏組合」が事業主体となって、2040年度の稼働開始を目指す。

11月14日 新宮市、JR新宮駅近くの市有地に高級宿泊施設を誘致

新宮市は、市有地に高級宿泊施設を誘致する方針を公表。事業者は公募型プロポーザルで募り、有償で土地を貸与する。場所は、JR新宮駅に隣接する市営駐車場と市営駐輪場の約3千平方メートル。1泊5万円以上の宿泊滞在施設を見込む。

3 地域開発のうごき

2025年8月～2025年11月

大阪府内

8月6日 大阪IRアクセス鉄道、桜島・中之島線延伸が優位

大阪府と大阪市は、大阪湾の人工島・夢洲にアクセスする新たな鉄道路線の整備について、京阪中之島線とJR桜島線をそれぞれ延伸する案に優位性があるとの検討結果を発表。統合型リゾート（IR）は2030年秋頃開業予定で、府・市は事業化を目指す。

8月21日 難波千日前に128メートルの複合ビル、2031年3月開業予定

関電不動産開発と南海電気鉄道、大阪メトロの3社は、大阪・難波千日前に高級ホテルや物販店舗などを備えた大型複合ビルを開業すると発表。高さ128メートル（地上28階、地下2階建て）で、2031年3月開業予定。

8月25日 近鉄GHDが大阪上本町を再開発、2030年以降に着手予定

近鉄グループホールディングス（GHD）は、創業地である大阪上本町駅とその周辺を2030年以降に一体で再開発する。まず、近鉄百貨店上本町店を建て替え、シェラトン都ホテル大阪の刷新を検討する。総投資額は1300億円超を見込む。

8月25日 大阪・中之島に57階建てタワマン、2032年に完成

関電不動産開発とNTT都市開発、住友商事は、大阪・中之島で建設する57階建てのタワマンションについて、完成が2032年1月中旬と発表。同規模の超高層マンションは首都圏以外ではなく、日本最大級の物件となる。

9月19日 京橋駅の地下化再始動、2053年の完了目指す

大阪市は、JR片町線・東西線の京橋駅を地下化する計画に着手する。京橋は鉄道4路線が乗り入れる市内有数のターミナル。駅舎を地下に移設し、地上を走る線路約1.3キロを地下に引き込み、3か所の踏切りを撤去する。事業費約1000億円。

9月26日 阪急阪神HD、梅田刷新へ

阪急阪神ホールディングスは、梅田東地区の再開発事業を本格化。2025年1月に営業終了した「大阪新阪急ホテル」を2025年度内に解体着手し、2030年代以降、「阪急ターミナルビル」とホテル跡地で高層ビルを開発し、駅直下の「阪急三番街」も全面改良する。

10月13日 万博跡地、国際エンタメ拠点に

大阪・関西万博跡地で、「世界クラスのウォーターパーク」などを整備する案が浮上。隣接地で工事が本格化した2030年開業予定の統合型リゾート（IR）と合わせ、年3000万人が訪れる国際的なエンターテインメント拠点を目指す。

10月20日 難波のクボタ本社跡にアリーナ

クボタが、大阪・難波にある本社を移転した跡地で、1万2000人規模のアリーナを核とした再開発に乗り出す。約2万4000平方メートルの敷地に商業施設と合わせて整備する。「アフター万博」に向け、エンターテインメントを中心とした「ミナミ」の再開発が進む。

11月26日 阪急梅田駅を大規模改修、2026年1月着手

阪急電鉄は、2026年1月から大阪梅田駅の大規模リニューアル工事に着手すると発表。3階ホームの停車位置を北に14メートル移動するほか、ホーム柵やエレベーターの設置、バリアフリー対応を進め、空いたスペースはコンコース空間の機能性拡充に活用する。

経済トピックス

4 関西国際空港

2025年8月～2025年11月

関西国際空港

8月14日 LCCの国内線エリアを改装、2026年春の供用開始予定

関西エアポートは、関西国際空港で格安航空会社（LCC）が乗り入れる第2ターミナルの国内線エリアを改装する。自動手荷物預け機を10台導入するほか、複数客が同時に荷物検査できるスマートレーンも取り入れる。

8月25日 お盆の出入国者、過去最多の86万人

大阪出入国在留管理局関西空港支局は、お盆期間の8月8日から17日の関西国際空港の出入国者数（速報値）が、前年比18%増の86万8710人と発表。お盆期間としては過去最高の人数。

9月19日 国際線出国エリアの新規出店店舗が決定、2026年夏開業予定

関西エアポートは、第1ターミナル国際線出国エリアの新規出店店舗が決定したと発表。ラグジュアリーブランドをはじめ、日本・関西ならではの特色あるバラエティ豊かな23店舗が出店予定で、2026年夏にオープン。

10月21日 関西国際空港の冬期国際便、13%増え最多

関西エアポートは、2025年冬期（10月26日～2026年3月28日）の関西国際空港の国際線運航スケジュールを発表。国際旅客定期便はピーク時（12月）で週1553.5便と、昨年冬期を13%上回り過去最多を更新。

10月26日 ジェットスター・ジャパンが関空＝マニラ路線の運航を再開

ジェットスター・ジャパンは、旺盛な訪日需要に応えるべく約5年8カ月ぶりに、関空＝マニラ路線の運航を再開した。2026年3月28日までの冬期期間中は週最大7往復運航予定。

10月27日 2025年度上半期の外国人旅客数、過去最高

関西エアポートは、2025年度上半期（4～9月）の関西国際空港国際線の外国人旅客数は、前年同期比16%増の1099万人となり、上半期として過去最高となった。円安や大阪・関西万博開催で、アジアを中心に需要が好調。

10月29日 関西国際空港を出国の訪日客、4人に1人が万博へ

大阪観光局は、訪日外国人客の大坂・関西万博への来場傾向に関する調査結果を発表。大阪を訪問して関西国際空港を出国した訪日客の4人に1人（24.9%）が、大阪・関西万博を訪れていたと推定した。

11月4日 大阪・関西万博のEVシャトルバス、関西国際空港で活用

南海バスと関西エアポートは、大阪・関西万博で会場輸送に使用していたEVシャトルバス4台を、関西国際空港内でターミナルビルから離れた場所に駐機している航空機への送迎に運用するランプバスとして活用すると発表。

11月12日 万博展示品、関西3空港にレガシーとして設置

関西エアポートは、関西国際空港第1、大阪国際空港、神戸空港に、大阪・関西万博の国内外パビリオン11館から提供された展示品13種類をレガシーとして設置すると発表。文化や技術、海外との友好を継続して発信する。